グリーンコープ生協 ふくおか発

拡がる遺伝子組み換えナタネ汚染 止めるのは市民の力

「食と農を考える市民の会・福岡」設立

グリーンコープは、1996年のGM（遺伝子組み換え）作物の日本への輸入許可をきっかけに設立された「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」に連帯しながら、遺伝子組み換えに反対する運動を展開しています。

2012年10月6日、生産者、消費者、食に関わる事業者と地域のGM問題の実態について共有しながら、関心を持つ人を増やし、自分たちのできることを考え行動していくために、「食と農を考える市民の会・福岡」が設立されました。

設立総会、記念講演会、シンポジウムと、11月18日のGMナタネ抜き取り隊のようすを報告します。

設立総会

来賓の田中裕子さん（共同体代表理事）

発起人で副代表の田原幸子さん（ふくおか理事長）

設立総会には、ふくおかの組合員の他に一般の市民も含めて、約150人が参加しました。副代表の田原幸子さんからは「よりたくさんの人にこの取り組みに関心を持ってもらいたい」、来賓の田中裕子さんからは「この取り組みがオールグリーンコープの中で拡がっていくように願います」と挨拶がありました。

設立趣旨などの提案すべてが拍手で承認され、さらに拡がる活動に向けた参加者の期待が感じられました。

記念講演会

GMナタネ自生の実態と市民の抜き取り活動の意義について

農民連食品分析センター　八田純人さん

八田純人さん

九州唯一のナタネの輸入港である博多港を中心とした地域の、GMナタネの自生状況は全国的に見ても最悪です。内陸に製油工場があるのでナタネを長距離輸送しなくてはならず、種のこぼれ落ちが多くなるからです。

数年前、同じような状況だった四日市市（三重県）では、地元活動グループが輸送業者に働きかけて、輸送量を減らす、トラックの荷台にシートをかぶせるなどを続けていった結果、こぼれ落ちが少しは改善されました。しかしGMナタネの自生は減っていないようです。GMナタネは一旦汚染が拡がると、人間の力ではなかなか止めることができないのです。

自生GMナタネの根絶には、地道な市民レベルでの調査が必要です。みんなで実態を知り活動を拡げていきましょう。

シンポジウム

遺伝子組み換えナタネ汚染、止めるのは市民の力

シンポジウムでは事業者の代表として※グリーンクラブの吉村孝志さん（ネッツフーズ）から「メーカーの責任として、自分たちもしっかり学習していかなければと感じています」との発言がありました。

また、ふくおかの福岡東支部委員長三浦恵さんは「博多港がある福岡東支部の委員長として、自分たちの住むエリアにGMナタネが拡散していることがとても心配です。これからも調査や抜き取りなど、できることを続けていきながら、周りの方々へも伝えていきたいです」と決意を語りました。

「自分たちでできることを実践しながら、行政や企業にも働きかけを続けていくことが、社会を動かすと確信しています。ひとりでも多くの方の活動参加を待っています！」と外井京子さんがまとめました。

※グリーンコープとの取引業者の集まり

コーディネーターを務めた代表の外井京子さん

活発に意見交換がされたシンポジウム

GMナタネ抜き取り隊報告

11月18日

自生しているナタネを一つひとつ抜き取りました

「九州唯一の輸入ナタネの荷揚げ港である博多港での遺伝子組み換えナタネの自生状況はまだまだ深刻です。食べもの、環境の為にも自生をこれ以上広げないように、自分たちでできることをやりましょう」との挨拶の後、箱崎埠頭に集まった36人（組合員、市民、事業者）が4班に分かれ抜き取りをスタートしました。

製油メーカーの周りはきれいに清掃されておりナタネはほとんど生えていませんでしたが、ナタネの種がたくさん落ちていました。倉庫会社に続く道には、まだ小さなナタネが数多く生えていましたので植え込みの中や道路の端のところ等を一つひとつ見分けながら抜き取りました。中には茎が太くなって多年草化しているものもありました。2時間で3931本を抜き取りました。最後に4検体で簡易検査をおこない、3検体で陽性反応がでました。今後もしっかりと調査活動と抜き取りをおこない、もっと多くの人に参加を呼びかけていきたいと思いました。

福岡地域理事長　古賀　栄子

設立趣意書

私たちは、生命が軽んじられる時代状況の中で、生命を大切にしたい。そのためにまず、食べものを大切にしたい。また、農業と環境を大切にしたい。そして人間と人間が生活する地域を再生していきたいと願っています。

～中略～

グリーンコープでは、2005年より九州で唯一のナタネ輸入港である博多港を中心に自生遺伝子組み換えナタネ調査活動を行われてきました。7年間の調査から、博多港周辺の遺伝子組み換えナタネの自生の実態や拡散、さらには交雑の危険性が存在していることが判明しています。

この活動に参加する中で「なんとかしたい」との思いが年々募りました。また、博多港から遺伝子組み換えナタネの拡散を防ぎ、地域の食べもの、環境を守る活動として「GMナタネ抜き取り隊」を結成して拡散防止にも取り組んできました。

毎年の調査や抜き取り活動をする中で、一度自然界に遺伝子組み換えナタネの汚染が広がると人間の力では止めることができないのではないかと強く危惧しています。しかし、このような思いは日々の生活の中ではなかなか実感できていません。

だからこそ私たちは、「食と農を考える市民の会・福岡」を立ち上げ、地域に広がっている「自生遺伝子組み換えナタネ」の現状に向き合います。大切なことは、生産者、消費者、食に関る事業者の人たちと地域の遺伝子組み換え問題の実態について共有し、関心を持つ人を増やしていくことです。

私たち市民が自らできることを共に考え共に行動していきましょう。

2012年10月6日